

令和5年度第1回伊賀市美術博物館建設準備委員会 議事録

【日 時】 令和5年7月10日（月）午後2時～午後4時35分

【場 所】 ハイトピア伊賀 5階 多目的大研修室

【委 員】

	氏 名	所 属	出欠
学識経験を有する者	藤田 真一	関西大学名誉教授	出
	辻村 尚子	大手前大学国際日本学部准教授	出
	井上 一穂	同志社大学文学部文化史学科教授	出
	穂積 裕昌	三重県埋蔵文化財センター所長	出
	福田 良彦	三重県総合博物館学芸員	出
	四辻 秀紀	名古屋経済大学経営学部経営学科 特別教授	出
	菅谷 富夫	大阪中之島美術館館長	出
芭蕉翁顕彰関係	植田 美由喜	公益財団法人芭蕉翁顕彰会	出
公共的団体を代表する者	中村 忠明	公益財団法人伊賀市文化都市協会	出
	長谷 康弘	一般社団法人伊賀上野観光協会	出
市民からの公募による者	笹山 忠臣		出
	辻本 恭子		出
	友田 律子		出

【議事録】

1. 委嘱状交付
2. 市長あいさつ

伊賀地域は県内でも色合いの濃い地域。伊賀ではいろんな文化が生まれた。能の創始者である観阿弥や俳諧の創始者の松尾芭蕉、日本遺産になった忍者文化、伝統工芸の古伊賀、組紐など、文物の蓄積も並々ならない状況。指定文化財の数は県内で一番多く、近現代においても様々なアーティストを輩出した。今までこの地域に博物館・美術館がなかったことが不思議なくらいのところであります。

先人が何を思い、何を成されたのかを、我々が五感で深く感じられる場所になれば良い

し、そういった場所が将来的に必要であると思う。それが美術館博物館を作るということでもあります。

委員の皆さんのお知恵をお借りして、どんな物をどんな所に、どんな風に作っていったら良いのか、市民の皆さんの意見も含めながら検討いただきたくよろしくお願いします。

3. 委員紹介

事務局より各委員を紹介

4. 委員長・副委員長選任

事務局案として、委員長に藤田真一委員、副委員長に四辻秀紀委員を提案。

拍手で承認される。

5. 委員長あいさつ

今の芭蕉翁記念館は建設されてから 60 年以上が経過しており、老朽化が進み、かなり手狭な状態で、展示する作品にも限界がある。芭蕉の生まれたこの土地で、芭蕉を皆さんに知ってもらうために、何とかしなければならなかったと思っていた。

今回、委員会が立ち上がってその第 1 歩を踏み出そうとしていることに、責任を感じると同時にワクワクしている。みなさんの知見、経験を集めて良いものを造っていききたい。

6. 諮問

岡本市長より藤田委員長へ諮問。諮問書を朗読し、藤田委員長に手渡す。

【資料の確認】、【会議成立の確認】、【会議及び議事録の公開の確認】を経て、報告事項、議事に移る。

7. 報告事項

(1) これまでの検討の経緯

委員長：新しい芭蕉翁記念館の建設について、過去から検討が何度も繰り返されてきています。また美術作品についても、市民の皆さんからいろいろな要望がされています。そういった経過を委員の皆様を確認いただき、今後の美術博物館の検討の参考にしていただきたい。

事務局：（資料 1 に沿って説明）

委員長：報告ということで次に進みます。

8. 議事

(1) 基本構想の構成（案）と検討スケジュール（案）

委員長：基本構想の構成と、これからの検討スケジュールについて事務局から説明をお願いします。

事務局：資料 2、資料 3 に沿って説明

委員長：検討スケジュールとして、大体 2 ヶ月に 1 回、委員会を開催することになっているが、もう少し回数を増やすことは可能か。

事務局：第 2 回と第 3 回でほぼ基本構想を作ってしまうようなタイトなスケジュールにな

っています。ただ、会議資料を作成して、事前に委員の皆さんに資料を送付して確認いただくとなると、2ヶ月に1回程度の時間は必要と考えます。

ただ、拙速に進める訳にはいきませんので、議論の進捗によって回数を増やすことは可能です。

委員長：委員会が始まったばかりなので、今現在、今後のペースを考えるのは難しい。

検討していく中で必要であれば考えとし、今日のそれぐらいに留めておきたい。

（2）伊賀市美術博物館の必要性について

委員長：伊賀市美術博物館の必要性について事務局から説明をお願いします。

事務局：資料4に沿って説明

委員長：現状と課題については、基本構想の第1章になると思う。現状の把握、課題では伊賀市の状況をそのまま述べています。

また、必要性については、課題を解決するための方策を述べています。

これに対し、何かご意見等ございますか。

ないようでしたら、こういう形で必要性について、まとめていきたいと思う。

（3）意見交換

委員長：次に、意見交換に入ります。

伊賀市の美術博物館についてどのようなものを目指せばよいのか、現時点での皆さんのご意見をお伺いしたい。

○所蔵する俳諧資料、現在のものをきっちり保存して、後世に伝えていっとるこれはもう、伊賀市として責任重大だと思う。

○俳句に関わっている人でも、芭蕉をはじめとする江戸時代の俳句、俳諧についての、知識とか理解が十分でないというのは、あちこちで感じている。そのためにも、こちらで収集保存されているものを展示することによって多くの方に知っていただきたいということは常々感じている。

○伊賀市がこれまでずっと収集してきましたいろんな文化的なものの保存と展示、それから考古学の発掘も大変盛んと聞いている。そういうものを、一体化したような形の運営、活動ができればいいと思う。

○市民の側からの参加、特に若い方に参加をいただいて一緒に活動、あるいは展示物づくりなどができる拠点にできないか。

○美術博物館の検討だが、芭蕉翁という言葉、俳諧という言葉は一つもなくって、どういう性質のどういう特徴を持った施設なのかわからない。芭蕉を顕彰するという施設であるということをうたったような名称を考えたい。

○将来に向けて、新しい斬新なアイデアを盛り込んだもの、新しい顔になるところを作っていただきたい。その中ではですね、俳句だとか、それから工芸のですね、手づくりのもの、もちろん講座とか講演会もその中でやって、勉強できるような、そういう場になって欲しい。

委員：○伊賀市にとって何が大事か。芭蕉、それから忍者は別に置いて、伊賀焼であるとか、これ大事なんです。しかし地元の人たちには興味あるかわからない。だから、多くの人達にもっと知ってもらわないといけない。子どもたちに。自分たちの自信にも繋がっていくし、対外的にも自分の地元、これだけ素敵だよとPRできると思う。芭蕉、伊賀焼それから考古遺物もたくさんある、総合的に地元はこれだけ素敵だよ、というのを地元の人たちがもっと自信を持てるようなことを知ってほしい。そういうものを、この美術館博物館構想の中でやっていけばいいと思う。そういったビジョンが大切。

○ほかの地域には、こんなにたくさんの文化財は本当はない。伊賀市には各時代にわたって、素晴らしい文化財がたくさんある。それら文化遺産をどういう切り口で、地元の人たちの自信につなげるか、他の地域の人たちを呼び込めるのか。ここにお客を呼び込んで、経済的に活性化していったほしいし、それによって地元が潤うし、地元の文化の深化、ボトムアップしていくことにつながっていくので、美術博物館構想というのはとても大事だと思う。

委員：○愛されて開かれた博物館というところは、大体、目指すところだと思う。

○展示の核になるのは何かということを決めていく。芭蕉であるとか伊賀焼であるとか。それが決まれば、博物館のコンセプトの大きなところが決まる。

○博物館資料を増やしていく。文化財の資料を増やしていく方向に向けないと、今あるものだけでは尽きてしまう。博物館の資料というのを増やしていくという方向ですよね。これは予算もかかる。だけどそれやらないと博物館っていうのはもうジリ貧になっていくのは目に見えている。

○学芸員について、学芸員になってよかったと思えるような管理をしないとけない。待遇だけの問題じゃなく、やりがいの問題。学芸員としてどういう活動ができるのかという問題。そこも含めて考えないと、いい博物館美術館にはならないと思う。

委員：○長野県飯田市、愛知県、岡崎、豊橋、それから北海道苫小牧などに博物館、美術館がセットになった美術博物館がある。当初融合することが大事だとしていたが、結局それぞれのコンセプトが中途半端。飯田市の美術博物館の場合は、人文、自然、美術というふうにそれぞれ3つの部屋に分かれていて、それとは別に特別展みたいなのところと、あと市民ギャラリーというのがある。

先行事例の良い点悪い点を事務局でしっかりと調査して検討を進めていきたい。

○一番伊賀という風土に合致するように、伊賀という特徴を、やはり文化、昔から文化でやってきたところの特徴を出していくような博物館にしていきたい。

委員：○対外的なことを考えると、一言でわかりやすく、何の施設なのかと聞かれたときに、この施設ですと言える、わかりやすさが必要。

他所からいらっしゃった方に、こういう館ですと簡単にいえるような、キャッチーなものが中心の軸として必要なと思う。

○将来的なことを考えると、維持していくマンパワー、人の問題というのが大事

になってくる。その場合、専門的な人材が必要なのはもちろん、長く、維持していくという場合は、やはり市民の方々との連携、理解、協力をしながら続けていくという持続性が大事になってくると思う。

○2020 年にオープンした尼崎市立歴史博物館は、特に良いと思ったのは、市民との協力連携が非常にうまくいっていると思えるところ。文書などの整理や、いろいろなイベントで、市民の協力をうまく活用して、いろいろな取り組みをしている。

委員：○伊賀市の美術博物館は、市民のためでもなく、観光客のためでもなく、市民が自分たちの地域を大切に思って、外から来る観光客を含めた方に、伊賀市はこんなに素晴らしいんだよということを知ってもらえるような、施設にならないと駄目。

○人づくりであったり、まちづくりであったりというのが、大事にすべきで、主体にすべきところではないかなというふうに思いました。

○伊賀は小さな国なので、すごくまとまって、いろんなことが発信できる場所ではないかな。旧郡部を含めて伊賀全体を一つの固まりとして考えないと駄目だと思う。

○岐阜の美濃加茂市ミュージアムが、学校と連携した活動を一生懸命されていて、非常にミュージアムとしての評価が高い。

委員：○伊賀市が所蔵している美術工芸作品等では、お金を出して、人を集めることができるかということを考えると、なかなか難しいだろうと思う。

お金を出しても人が入ってくるという部分はやはり、芭蕉の方をテーマにしたほうが、人はお金を出してでも入ってくるだろう。

お金にこだわるわけではないが、運営ということも当然考えなきゃいけない段階がそのうち来る。その時に、そういう話になると思う。

○確かに芭蕉翁記念館的な要素というのはキラーコンテンツであり、お金を払った人が来る場所であるだろうと思います。

○企画展をやって、世界一級の美術品がこの美術館で見られるというようなことは考えないほうがいいだろう。その部分は、県立美術館が担うべき仕事。

伊賀に美術館を作るとしたら、どういう機能かと言えば、市民にアートを身近に感じてもらうための活動。或いは美術というものを触れる機会、その機会を増やそうというようなことでいいと思うので、そういう活動をしていくことが非常に重要だと思う。

○人口 9 万の市で全部やっ払いこうということは非常に難しい。当然優先順位をつけざるをえなくなって、その時に美術という分野って何ができるかって言ったら、やはり収蔵し、保管し、伝えていくこと。これは重要なことです。

しかし、あと展覧会を、いろいろとやっていくのは、すごくお金掛かること。それよりも、そういうものに触れる。触れるって別にさわらなくてもいいんですけど、そういうものを知ることができるチャンスをやっていくという活動を中心

とした、アートセンター的な見方っていうことを主軸に置くのがいいのかなと思う。

委員：○芭蕉翁記念館という名前、固有名詞はぜひ残してほしい。

委員：○施設の運営管理の検討が重要。運営の財政的な面もそうですし、新たに建設すると資金繰りが厳しい。営業力、企画力、広告宣伝なども含めた検討が必要。

委員：○子供から大人まで、賛成してもらえるようなものを作っていきたい。

○観光客として、新しい感性の高いお客さんを大切にしたいと思う。

○廃館になった伊賀信楽古陶館にあった奥知勇のコレクション、本来なら、このコレクションをみんなに見ていただいて、感性を高めてもらいたい。

委員：○伊賀出身なので俳句に興味がある。その姿勢とか、感覚的なものを若い人に伝えていきたいと思っている。インバウンド、海外からの観光客を前提に、こういう資産があるというところを見せ、海外の人にも伝え、国内の人にも伝えていく。

委員：○子供たちからおじいちゃんおばあちゃんまで楽しめる施設ができればいい。

○映像作品の展覧会に行ったが、芭蕉さんの回った道を映像で見られたら、小さい子供からおじいちゃんおばあちゃんも入れるのではないかな。

○特別な展覧会が、10年に1回か5年に1回とかあれば嬉しいと思う。

○中之島の図書館で行われていた「読み方を知る講座」みたいなものもあつたら嬉しいな。

委員：○コンセプト、私が今考えているのは、やはり子供中心。子供らに刺激を与えてもらいたい、そういう建物ができたらいいと思う。

○子供ファースト、地元の人がその建物に、そこに観光客もついてくるというような、そういう施設ができればいい。

○地元の人でも来やすい場所とか、観光に向けやすい場所とかに施設ができればいい。なかなか両方兼ね備えた場所に建てるというのは難しいかもしれないが。

委員長：ありがとうございました。

様々な経験を踏まえ、現実的な課題、問題点など、幅広いご意見いただきました。

皆様からいただいたご意見については、事務局の方で取りまとめていただき、次回の委員会で報告いただきたいと思います。

（４）市民アンケート調査の実施について

委員長：市民アンケート調査について、事務局より説明をお願いします。

事務局：資料５に沿って説明

委員長：ありがとうございました。

この設問について、質問の仕方や、追加した方がよい設問などがあれば、ご意見をいただきたいと思います。

委員：２ページ目の美術博物館の説明の中で、「上野公園内にある芭蕉翁を顕彰する施設「芭蕉翁記念館」と記載されているが、「芭蕉翁記念館」だけでも良いのではな

いか。特に、「上野公園内にある」という文言はなくても良いのではないか。

事務局：「上野公園内にある」という部分を削除します。

委員長：ほか、ご意見無いですか。

では、それで進めてください。

（５）その他

委員長：その他について、事務局から何かありますか。

事務局：特にありません。

委員：ちょっと行政への質問ですけどもよろしいですか。

役所の仕事の仕方として、委員会に諮問して答申されます。

芭蕉翁記念館基本計画検討委員会が当時の市長に答申をされています。2010 年。

それから、2013 年にも岡本栄市長宛に答申されている。

諮問して答申をされて、いずれも実現できないままとなっている。その答申に対して行政から、どのように返事して処理しているのかわからない。

本来でしたら、計画を作るにあたって、諮問をして、それに対して答申をいただいて、そのあと、市として計画を確定して、それに沿って工事の設計をして進めていく形になる。

2013 年の答申で、3つの候補地が示された中で、同時期に庁舎の移転とか昔の庁舎をどのようにするかになりました。

今は 2023 年。もう 10 年経っている。

委員会を何回も開いて、まとめていただいた答申を、経過はこうだが、でも実現できなかったと。その繰り返しなんです。果たして、そういう市の運営経営でいいのか大変疑問なんです。

事務局：旧庁舎の整備の検討が滞っていましたが、去年度、市庁舎活用の事業が進み始めたということで、それまでストップしていた検討を再開することになった。委員の言われる、答申しても、また答申倒れにならないのかとの懸念については、江戸時代の芭蕉さんの資料とかを、このままだったら、次の世代の引き継ぎできず、傷んで、ボロボロになっていくだけで、それが良いこととは思っていませんので、答申倒れにはならないようにしたいと思う。

委員：青山にある穂月明さんの青山讃頌舎についても、美術館が駄目だったからミュージアムにしたとか、本当に長期的な全体構想がきちっと固まって動かなければいけないと思う。今回は、美術館、博物館、全部一緒に組んだ施設となった。だけど、この運営についてはハードルが高いと思うんです。だからこれは乗り越えていかなければいけないという思いがあります。やはり儲かる施設ではないということが大事だと思いますが、皆さんのご意見いただきながら、しっかりと作っていかなければならないと思っています。

委員長：では、あとは事務局へお返しします。

事務局：長時間にわたりご審議ありがとうございました。

いろいろお話もありましたが、当時の芭蕉翁記念館の検討のときから進んでいますのは、伊賀市に文化振興条例という、法的担保がとれる条例ができております。それに基づいて10年間のビジョンの中で、5年間のプランと計画立てて進めておりますので、いろいろご心配があるかと思いますが、特に資料の保管という部分については必要に迫られておりますので、答申いただいた内容がなくなるということは我々もないと思っておりますし、当然、整備していく必要性も認識しています。

では、次回の委員会について連絡します。

事務局：第2回の委員会を9月下旬から10月初め頃を開催をしたいと考えています。

この後メールで日程調整をさせていただきます。

事務局：この後、芭蕉翁記念館の保管状況などの現地確認の予定となっておりますが、会議の予定時間を1時間超過しています。

委員長：今日は中止して、次回、見ていただいたらどうか。

事務局：では、委員会開催前に現地確認をしてもらえよう調整し、また連絡します。

それではこれで第1回伊賀市美術博物館建設準備委員会を終了します。